

い な づ ま

題字 小 寺 寛 一

発行所 函館地方電気工事協同組合
編集 総 務 部
住所 函館市日乃出町7番22号
印刷所 晶 山 印 刷



五 稜 郭 ま つ り

就任ご挨拶

北海道電力株式会社函館営業所

所長 佐々木 吉孝



二月末の社内異動で函館営業所にまいりました佐々木でございます。

工事組合の皆様方にはいろいろとお世話になるとおもいますが、よろしくお願いいたします。

また日頃は私共営業所の仕事に対しまして、いろいろとご協力を頂いております、厚くお礼申し上げます。

ところで60年後半からの急激な円高による経済不況や日米経済摩擦など、地球規模での経済動向、景気の行方については、大変気になるところであります。

これを視点を変えて、61年度の電気の需要動向（対前年比）で見えますと、当函館地方（渡島、檜山管内）は93.5%（全道：96.7%）と言った、今迄にない低い伸び率となっております。

これは「経済不況に円高の追い討ち」と言った単純なものではなく、本道の基幹産業が遭遇している多くの問題にも見られるように、「脱工業化社会」の大きなうねりの真只中にあることを、ひしひしと感じさせられております。

21世紀を10数年後に控え、次世代の経済社会の展望について各界で論議がなされ、「技術革新」に加えて「国際化」「成熟化」「高令化」と言った状況の進展が予測されております。

これを私共電気事業としては、「技術革新への対応」「エネルギーの選択」「経営の活性化」が更に強く求められて来る時代と受け止めております。

最近の事務所や工場等に於けるOA化やFA化の波は一般家庭にもHA化と言うことで例外ではありません。これに伴ない従来の質の高い電気工事に加え、より高度な知識や技能など、技術革新への対応が要求されて来つつあります。

またエネルギーの選択は、他エネルギーとの競合と言った形で既に始まっておりませんが、これはまた換言すれば企業の選別、サバイバルの時代とも言えます。これに対処して行くためには、マーケット・インの精神に立っての、より積極的な活動の展開など、企業の活性化が求められて来るところでもあります。

このように多くの課題、厳しい道程が予測されている時代の変革期ではありますが、組合の皆様方と力を合わせて乗り越えて行きたいと考えておりますので、宜しく願ひいたします。

おわりになりましたが、函館地方電気工事協同組合のますますのご発展と、組合員皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして挨拶いたします。



役員会だより

第九回役員会

六二・一・三〇

一、慶弔報告

なし

二、貸付報告

九社 三七〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ会議ならびに忘年会、新年会を開催した。

四、総務委員会事項

(一)、事務局職員冬期手当の支給報告

(二)、電気工事業法、電気工事士法と管理技士制度について

(三)、雇用促進事業団の一般競争（指名競争）参加資格審査申請書について

(四)、冬季の省エネルギー対策について

(五)、永年勤続者表彰式ならびに新年宴会の開催要領について

(六)、組合新加入申込みについて

(七)、組合譲渡・譲受加入について

(八) 扇谷電気工業——扇谷電気工業所（承認）

(九)、北海道電気工事業工業組合通常総代会について

(十)、昭和六二年度事業者台帳の作成提出について

五、技術・教育委員会事項

(一)、建築設備設計要領（昭和六一年版電気部）函館地区説明会の案内について

(二)、省マナー、省エネ電気設備について

(三)、北電引込改修工事について

(四)、北電作業用足場ボルトの使用禁止について

六、事業委員会事項

(一)、第三者損害賠償制度等資料について

(二)、本州派遣について

第一〇回役員会

六二・三・一〇

一、慶弔報告

(一)、梶谷電気商会代表者令室逝去

(二)、釣谷電気工業所代表者病氣入院見舞

(三)、(有)松浪電気商会代表者令嬢逝去

二、貸付報告

五社 二一〇万円

三、道工業組合総代会の報告

各支部それぞれ支部会議、新年会を開催した。

五、総務委員会事項

(一)、永年勤続者表彰式・新年宴会の収支決算について

(二)、建設工事現場における労働災害防止について

(三)、渡島支庁立入検査の結果について

(四)、組合創立四〇周年記念式典について

(五)、組合譲渡・譲受加入について

(六)、組合脱退申込みについて

(七)、組合脱退申込みについて

(八)、巴電工舎（廃業）

(九)、(有)平大電工（廃業）（承認）

(十)、組合新加入申込みについて

(十一)、「青函博」特別負担金並びに前売券について

六、技術・教育委員会事項

(一)、建築設備設計要領説明会の報告

(二)、北電引込以下改修工事について

(三)、北電自動点滅器、電線ヒューズの業者持ちについて

七、事業委員会事項

(一)、第三者損害賠償制度等資料について

(二)、大同生命団体共済保険料について

組合行事

- 2月4日 いなづま編集会議
- 7日 八雲支部八雲ブロック会議兼新年会
- 9日 北支部会議兼新年会
- 10日 渡島支庁による電気工事業法立入検査
- 10日 青年部新年会
- 12日 赤川支部会議
- 13日 団体中央会組合青年部交流会に平沼部長出席（於札幌市）
- 14日 中支部会議兼新年会
- 16日 八雲支部森ブロック北電関連工事安全衛生協議会
- 20日 渡島支庁による電気工事業法立入検査
- 20日 企 右
- 24日 江差支部安全大会
- 24日 渡島支庁による電気工事業法立入検査
- 27日 道工業組合総代会に吉田副理事長ほか理事四名出席（於札幌市）
- 3月5日 建築設備設計要領説明会（詳細別掲）
- 10日 第一〇回役員会
- 12日 電波障害防止協議会役員会に坂本事務局長出席（於北電）
- 13日 団体事務長会運営委員会に坂本事務局長出席（於中央会）
- 全日 東支部会議
- 14日 現場管理責任者研修会議（詳細別掲）
- 17日 西支部会議
- 全日 八雲支部森ブロック会議
- 19日 北電函館営業所地区北工連絡会議に吉田副理事長ほか委員一名出席
- 20日 道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理

事長出席（於札幌協組）

全日 中渡島支部会議

23日 「青函博を成功させよう会」設立総会に細川副理事長出席（於函館商工会議所）

全日 八雲支部役員会

全日 青年部役員会

24日 全日電工連臨時総会に大倉理事長出席（於東京都）

25日 主任電気工事士研修会（詳細別掲）

26日 団体事務長会勉強会に坂本事務局長出席（於拓銀ビル）

27日 小規模企業振興委員連絡会議に坂本事務局長出席（於函館商工会議所）

30日 全道事務長会議に大倉理事長、坂本事務局長出席（於札幌市）

お知らせ

このたび「労働保険の保険料の徴収等に関する法律」の規定に基づき、雇用保険率が引き下げられますのでお知らせいたします。

なお、詳細については公共職業安定所の窓口でおたずね下さい。

記

一、施行期間 昭和六十二年四月一日から一年間

二、対象事業 全産業

三、引下げ率 一、〇〇〇分の〇・五

四、引下げ後の率

イ、一般の事業 一、〇〇〇分の一四

ロ、特掲事業 一、〇〇〇分の一六

ハ、ロのうち建設事業 一、〇〇〇分の一七

※ 四事業に係る率の変更であるため被保険者に係る負担は従来どおりです。

函館公共職業安定所

組合員の異動

Ⅱ組織・代表者・住所の変更Ⅱ

（新）

（旧）

一、小澤電設工事㈱（八雲部） 小澤電気商会

代表取締役小澤昭一 代表者小澤昭一

一、共栄電気工業㈱（江差部）

代表取締役深見秀治 代表取締役山崎鉄雄

一、㈱トラス電工舎（西支部） トラス電工舎

代表取締役熊谷浩四郎 熊谷浩四郎

一、石川電気工業所（西支部）

函館市宝来町三一―一一 函館市栄町一二―二三

一、協信電気工業㈱函館支店（北支部）

支店長工藤定一 支店長鶴沢芳雄

組合員消息

一、三月一日 函松浪電気商会（令嬢松浪ゆかり殿）逝去

一、三月六日 北盛電工㈱（尊父小川勇殿）逝去

一、三月九日 林電工（尊父林正利殿）逝去



電気工事業法に基く 立入検査

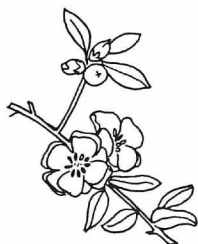
渡島支庁による電気工事業法に基づく立入検査が、去る二月に延五日間に亘って三四事業所（組合員三〇非組合員四）に対して実施された。

検査の結果指摘された主な事項は別表のとおりであるが、あらかじめ立入検査の通知がされていたにもかかわらず、当日二事業所が不在であったのはどういふことなのだろうか。

工事整理簿の記載についての指摘が相変わらず多く、作業者の氏名、工事着手・竣工月日の記載のないものが多く指摘されているが、某組合員にあっては工事整理簿を備え付けて居らず、おまけに配線図等関係書類を全く保存して居らなかった。

電気工事業法が昭和四六年に制定されてから一六年が経過し、毎年主任電気工事士に対する研修会が開催されて居る中で、このような組合員が居ることには誠に残念なことである。

幸い支庁の処分が自主謹慎ということですが、今後このような不始末は二度と指摘されないよう勧告すると同時に、支庁では今後は取消し等の厳しい処置をとるとの方針なので、別表を参考に充分注意をするようお願いする。



立入検査指摘調

調査件数 34 件

指摘事項		組合員		員外者		計	
1	標識						
(1)	店頭用標識の掲示していない	1					
(2)	店頭用標識の掲示場所が不適当である		1				
(3)	店頭用標識が誤っている	2		1		3	
(4)	店頭用標識の記載事項が誤っている	4		1		5	
(5)	現場用標識の備付けがない	7				7	
(6)	現場用標識はあるが掲示していない	4				4	
2	工事整理簿						
(1)	備え付けがない	1		2		3	
(2)	注文者・施工者の記載が誤っている	5		1		6	
(3)	着手、竣工月日の記載がない	7		1		8	
(4)	主任電気工事士名の記載がない	5		1		6	
(5)	作業者名の記載がない	10		1		11	
3	配線図等関係書類						
(1)	保存が不備である	6		1		7	
(2)	保存していない	1				1	
4	その他						
(1)	変更事項の届出がされていない			1		1	
(2)	工事士免状のない者に作業をさせている						
(3)	登録・届出のない業者に下請をさせている						
5	不在	55				55	

建築設備設計要領

(昭和61年版電気の部)

説明会

主催 ㈱営繕協会・㈱日本設備設計家協会

運営事務局 ㈱北海道電業協会

後援 北海道開発局・北海道・札幌市

協賛 財団法人建設研修センター・㈱日本電設工業協会

日本建築設備士協会・㈱北海道電業協会・㈱日本

本空調衛生工業事業協会・北海道電気工事業工業

組合・北海道空調衛生工業事業協会連合会・北海

道管工事事業協同組合連合会・北海道設備設計事

務所協会

建設大臣官房官庁営繕部の監修による『建築設備設計要領』が改訂され、昭和六一年版が発行されたのを機会に、この説明会が去る三月五日ホテル函館アカシヤを会場として開催された。

定刻の九時には六五名の受講者が出席、組合の吉田副理事長のあいさつに次いで、北海道開発局営繕部設備課の久保了護営繕監督官があいさつをし、引き続き説明会に入った。

午前の部は改定の要旨と電灯・電力設備について久保営繕監督官が説明にあたり、午後の部は通信設備を同監督官が、受変電・自家発電設備・防災設備ならびに監視設備について田口幸則電気第一係長が詳しく説明受講者は熱心にメモをとり、午後五時に説明会は終了した。





主任電気工事士研修会

主催

北海道電気工業組合
函館地方電気工事協同組合

後援

札幌通商産業局
北海道電力株式会社

財北海道電気保安協会

議題および講師

一、電気事故防止について

二、自家用施設の立入検査結果について

三、電気工事業を営む者の登録制度について

四、需要家電気施設施工時における留意事項について

五、事故例について

渡島支庁経済部商工労働課 佐藤主事

北海道電力(株)函館営業所配電課 岩倉副長

財北海道電気保安協会函館支部

吉田 支部長代理

第五回目の主任電気工事士研修会が、三月二五日ホテル函館アカシヤを会場として開催された。

はじめに吉田副理事長があいさつに立ち「現在は一部に常軌を逸した低価格競争が見受けられるが、多様化するユーザーのニーズに合わせ、すさまじい技術革新の波に同道するのが電気工事士の役目である」と強調。誤結線による事故が多い現情を指摘し一層の安全の確な工事の施工を求めた。

引続き議題の一から順次研修に入り、出席者一三六名は熱心に聴講午後五時に約四時間に互る研修会を終了した。

なお、本年度も受講者には受講証を交付しましたが大切に保管して支庁等の立入検査の際に呈示するようにして下さい。

現場管理責任者 研修会

名称—ニューメディア時代の現場責任者のあり方(Ⅲ)

—利益の源は現場にあり—

主催—北海道電気工業組合

函館地方電気工事協同組合

協賛—松下電工株式会社北海道電材営業統括

昨年に引続いて標題研修会が、去る三月一四日ホテル函館アカシヤにおいて、受講者三五名が出席して開催された。

研修会に先立って、細川副理事長より『現場責任者は会社の経営者である。付加価値の高い仕事をしなければならぬ。又売上税が我々にとってどう影響するのか考えなければならぬ。今日の研修会を有意義に活用して欲しい』とのあいさつがあった。

研修会では、松下電工(株)経営相談室の仲野邦久氏が講師となりBA(ビル管理)やOA、CA(情報通信)など設備重装化が進み、IBS対応能力が要求されている時代背景にあって、情報産業の革新に伴う電設業界の近代化とは何かについて、豊富な話題でユーモアを交えて新しい管理と啓発のポイントを示し、受講者は熱心にメモをとり一日に互る研修会を終了した。



出来ている。クレターを除けながら歩く。クレターによって出来た于割れは花とも雪型ともつかない実に見事な図案である。于上った湖底一面に花を散らしたようだ。地上は湖底から直立の高い岸となる。水が豊富なら船が横着けて高さなど感じないのだろうが、一步のぼるとズルズルとすべり落ちる。土地の子供が手を引いてくれてやつのぼる。だがその後が大変、石を買えとかアメを呉れとかまつわりつかれる。特にボールペンをほしがった。石も全く小石程度のもので純粹のみどり石ではない。縞や珙が入ったものばかりである。何人かの先生達（三回目の訪中は全国高等学校国語研究会のメンバーに入れてもらったのでオール先生である）が一角のコインや二分のコインを与えていた。

窟は撮影禁止、窟の入口でカメラは一時あづけとなる。しかもあづかる料金を取るからなか／＼ぬけ目がない。入場料は勿論支払った。さすが中国人の商売上手と感心する。

炳靈寺と言うとすぐ大仏が思い出される。さすがピールの大仏は大きい。高さ二十七メートル、唐代の作との事である。奈良の大仏より大きい。岩面に直接仏を彫り、仏の周囲を縁取りのように彫りこんだので窟の中の仏のように見える。お顔の破損がはげしく高かっただろう鼻は削られてベシヤンコになっている。目も大部そこなはれてをり、やさしい筈の表情は上目づかいに仏教迫害を今も吾々にうたえている。大きいものはこれだけであとは小さいものばかりである。大仏像（大仏像を納める厨子。ここでは岩はだを彫った空間を言う）の最後に「一九六」の番号がついていたのを見たから整理のついたものが「一九六」と言う事なのだろう。まだ未整理のものがあるのかどうかはわからないが。窟の中の仏像は一体だけでなく、大中小数体納まっているところが多い。顔の潰れたもの、色彩がうすれてはつきりしない壁画、壁画と組み合はされたもの等である。全体の仏像の数は七千二百に及ぶと言う。唐の時代にだけでも百三十窟も作られたと

言う。そのうち最も盛んであったのは高宗と則天武石（六九〇—七〇五）のときと言われている。北魏の孝文帝の時代にも四十一窟が掘られていると言う。しかし、直立の岩壁によく彫ったもの、現代の機械化と違いコツコツと気の遠くなる程の時間をかけ、それも手彫りである。皇帝の命令とは言え「仏」にかける執念がなければとても出来なかっただろうと思う。

しかし、私の期待が大きかったせいか仏像から受ける感激は敦煌の莫高窟にくらべてうすい。莫高窟に比較する方が間違っているのかも知れない。雨が降らない八月の渇水期に來られた事を思うと不平を言ったら罰が当たるかも知れない。

仏教は印度から中国の黄河流域を通り朝鮮を経て日



左 公 車

本に伝来した。札幌に「黄河発窟展」が昨年十月にあり、見たい一心で電話で足りる用事にかこつけてわざわざ出かけた。出土品の中に仏教に関係のあるものが沢山あった。「アツ」と驚いたのは奈良の正倉院の御物の写真が三枚張られてあり、その写真と全く同じものが発窟品として並べられてあった。東京大学東洋文

化研究所教授鎌田茂雄先生は「黄河の流れは仏の来た道であり、ブッダロードと名付けられるべきである」と言はれたが、黄河流域に蘭州の敦煌莫高窟の絢爛たる壁画と塑像、炳靈寺の石窟、雲岡石窟、竜門石窟、鞏県石窟、そして山東半島の雲門、駝山の石窟と並び黄海を渡って朝鮮、かつての高句麗、石済の天余や新羅の慶州を経て日本の北九州、奈良の大和へとつづいている。聖徳太子の師は高句麗の渡来人、像「慧慈」である。竜門石窟の大仏の造営は唐の高宗の時代（六七五年）で奈良の東大寺の大仏建立の七十年前であり、奈良の大仏はこの竜門の大仏をモデルにしたと伝えられている。

中天の太陽がキラ／＼して石窟は太陽をともに受けている。色彩があざやかに見える筈と思うが、写真よりはボケて貧弱に見える。長い間、この太陽の為に絵具が変質したのだろう。莫高窟は真つくら闇だから光が及ばず変化は、この炳靈寺の石窟とは全く違うのだと思う。

かつて壮大な寺院が建ち並んでいたのだろうが、現在は石窟のみである。「お寺がないのか」との質問に「そこにある建物」と指さした建物はおよそ寺らしくない。軒のそりもなければ屋根の作りも違う。多分現在の石窟の管理人が住んでいるのではないかと思う。僧が居て石仏に供養したり読経したりなどはしていないと思はれた。

左公車

甘肅省の省都蘭州は山あいを流れる黄河の南岸にあり、河沿いに開けた都市である。この蘭州は昔「金城」と言った。そのもっと古い以前には「永登」と言ったと言。

黄河にかかる大橋（黄河鉄橋。開放前フランス人の設計で造られた）を渡ると白塔山と言う公園がある。この鉄橋は黄河を越え青海省や新疆地区を結ぶ唯一の交通路である。公園は山頂に白い塔があるのでこの名

があるが、今は山全体が公園である。山の頂きから目の下の黄河とその両側に広がる蘭州の市街は壮観。

公園の中では樹下でマージャンをしている人達、黙々と木陰で涼を取っている人達、三・四人がおもいおもいの楽器を奏する人をかこんで音楽を聞いている人達等さまざまである。中国のマージャンのバイは大きい。日本で使用されているものの倍の大きさである。回族の老夫婦がいたのでそとそばに寄り写真をとる。皆私達の真似をし出したので老夫婦は何やらブツブツ言いながら場所を移してしまつた。

今夜のホテルは「金城飯店」である。かつての地名「金城」の名である。食堂の隣のロビーに「左公車」(日本の水車)が廻っていた。

何時頃開発されたのか定かではないが、孔子や孟子が活躍した春秋戦国時代(前七七〇—二二二)と言う人も居れば、後世の五胡・十六国時代(三一六—四三九)と言う人もある。わかつているのは、この地方(蘭州)を支配した少数民族出身の「左宗道」と言う人が、工夫して作り使用したので「左公車」と言う事である。

灌漑用のものは直径十五メートル以上もあるとの事である。すべて木製で周囲に六十八個の木筒が取りつけてあり、このような大きなものが三基も四基もつながって、黄河の水を田畑に汲み上げているのは壮観だと思ふ。

ロビーの「左公車」も室内飾りとしては中国らしく意表をつく。ホールの中に水槽を置いて水を汲みあげ、ザーツ、ザーツと大きな音を立ててゆっくり、ゆっくり廻っていた。

甘新公路を往く

この公路は甘肅省の省都蘭州と、新疆ウイグル自治区の首都ウルムチ(烏魯木齊)をつなぐ砂漠の公道である。現代のシルクロード、河西回廊と言える。

昨夜のホテルの扱いは全くお粗末で

葡萄酒の美酒夜光の杯

飲まんと欲して琴瑟馬上に催す
酔うて沙場に臥す君笑うなかれ
古來征戦幾人か帰る。

なんてロマンチックな気分には程遠かった。

八時三十分出発。ハブニングがある。それはカナダ人の中年の女性で自分達のグループにはぐれたと言う旅行者を乗せる。あのホテルなら連絡不十分だったのだらうと後部座席の彼女の顔を眺めた。

オアシスをぬけてしばらくは両側に「えんじゅ」の並木がつづく。そのうちに右も左もただ黄土色だけとなる。突然折連山の山なみが見えると通訳の藩さんが言う。万年雪が青空に輝いているのが目に入る。車を止めてくれたので皆ワイ／＼言いながら全員カメラを下げて車を下りる。低い砂山にのぼってカメラを向ける。だが、この砂山の登りにくいこと、タカをくくって登ったが、一步のぼるとズル／＼と二歩すべり落ちて大変、内心「これしきの事に…」と意欲を燃やして四つん這いになってやっと登った。上にあがってからはばらくは胸の動悸が納まらなかった。子供の頃、大森浜の砂山に随分のぼった記憶があるが、こんなに登りにくくはなかったように思う。砂の質が違うのであるうか、登る人間が変化したのだろうか。

海拔四一五千メートルの山が連なり東西八百キロ、三千本の永河をかかえ融ける事のない万年雪を冠った山々が、ぬけるような青空に輝いている。四つん這いになって登った甲斐があったと思った。折連山を称して「氷れるダム」との別称があると言う。

通訳の藩さんは昨年(一九八五年)一年間、静岡大学に留学しただけあって流暢な日本語で、「今回の皆様は教育関係の方ばかりなので」と前おきしながら、現在の中国の教育事情を説明する。

教育は幼稚園・小学校・中学校・上級中学(日本の高校)・大学(中国では大学と言わず高校と言う)とコースは日本と同じであるが、はじめから試験がある。幼稚園から選抜である。勿論出来る子ばかりでなく出

来ない子もある。「重点教育」の意味から選抜し「重点小学校」に入学する。選抜した先生が配属される。中学に進む時、自分から希望して試験をうける。こゝでも選抜された者は「重点中学校」に入る。この中学校からは大学に進むことが出来る。小学校を修了して中学に進む時、二流(重点中学でなく普通の中学校)の中学校に進むと大学には進学出来ない。中学で終ってしまふ。クラブ活動はないが各自の技能をのぼすため、素質のある者は小・中併せて「少年宮」に入り特技をのぼす。(中国の運動選手はすべて皆この少年宮の出身者である)教育はすべて国家経営であるが、入学する、しないは各自の自由と言う事である。スポーツはまだ全般ではなくサッカーなども道路で遊んでいる程度、野球は全くしていない。

教師の地位は低く給料もやすいのであまり手がない。国家の指示で先生となり各地区に配属される。

現在の中国の経済機構は昔の国家経営から変化して自由経済となり、所得の一位は自営業である。日本で一番強く感じたことは治安のよい事であると話していた。中国は現在人口の増加を制限してをり、二十一世紀には十二億になるだろうと言はれている。現在の人口は十億三千五百万人であり、子供が二人になると罰金を三千元(この訪中の時は円高の関係で一元日本円の四十四円であった)とられる。年収の二倍ぐらゐの金額である。

中国人の個人差はそうないが地方差がはげしい。現在はテレビ、洗濯機、ミシン等が九十パーセントの普及率を示し、冷蔵庫の輸入品は一五〇〇元、国産品は六〇〇元、しかし国産品には人気がない。オートバイ一二五CCが三五〇〇元、やすいものは家賃ぐらゐである。

老人対策については女五五才、男六十才で退職する。病気の時は全額会社負担である。大家族制度なので親と一緒に住む。一人の子供が父の両親、母の両親に可愛がられるので我がままである。

以下次号

青年部

第4回 通常総会開催

組合青年部の第四回通常総会が、去る四月一七日ホテル第二オーションで開催され、会員二六名中二〇名が出席した。

はじめに平沼部長が挨拶に立ち

『業界を取り巻く環境はますます厳しい状況であるが、それに立ち向かううえで、青年部としてどのような行動が出来るかあるいはすべきかを良く考えて行きたい。その意味では地方の時代と言われているが、大都市に比べるとまだまだ地方は情報が不足している。広く他地区、他業種の青年部とも交流し、情報交換を行なって、青年部が情報センターの様な役割を少しでも担って行きたい』と決意を述べた。

引き続き議長長の選出、議事の審議と進められ、議長には部長一任という事で伊東研一氏（ユタカ電機）が選任され議事の審議に入った。

議事の審議は

第一号議案 昭和六一年度事業報告及決算報告

第二号議案 全右 監査報告

第三号議案 昭和六二年事業計画及予算案

第四号議案 役員改選

といずれも満場一致で可決された。

昭和六一年度の事業報告では、総会の開催（景福ホテル）、技術図書の配布（電気工事技術百科早わかりIIオーム社）、北海道中小企業団体青年部連絡協議会への加入及び同会主催の研修会参加、新年会の開催、慶弔関係（イトウ電気伊東照勝氏結婚）等の報告があり、第三号議案の事業計画案としては特に施設見学会（予定として大阪の松下電工インテリジェントビル）

を重点事業とするほか講師研修会、技術図書の配布、新入会員の拡大、組合理事者との懇談、他地区、異業種青年部との交流、親睦会の開催が説明され各会員の理解協力を求めた。



第四号議案の役員改選では、議事に入る前に平沼部長より梶原副部長（梶原電気工業）の退任についての経過説明があり、そのうえで(1)梶原氏を除いた現行の役員の留任、(2)役員の中から副部長一名を選任したい旨の提案がありました。そして新しく副部長に小寺隆氏（日本電機保全）が選出され、満場の拍手で承認された。

部長 平沼冠三（樺電工業㈱）

副部長 大鎌哲雄（大鎌電気㈱）

理事 小寺 隆（日本電機保全㈱）

片岡 博（道南電気工業所）

工藤雅史（㈱工藤電気商会）

玉津真史（タマツ電機工業㈱）

本庄寛治（㈱本庄電気工業所）

監事 飯田政司（佐藤電気工事㈱）

大倉 直（大倉電気㈱）

総会は滞りなく終了し、組合の大倉理事長の祝辞、阿部正夫市議会議員の挨拶のあと懇親会に席を移し、大倉理事長、細川・吉田両副理事長、坂本事務局長も同席し、和気藹々のうちに懇談のひと時を過ごし盛会裡に終了した。

新入会員の紹介

土谷雅宏 日東電気工事㈱

昭和二八年一〇月五日生

市根井潤一 ㈱松本電気工業

昭和二五年一二月八日生

あかるい明日を技術でひらく

東芝電材株式会社

函館営業所

040

函館市大縄町二十二番十四号
電話 函館 四一―一三四一

吟味する

松下電工株式会社

函館出張所

函館市西桔梗町五八九番地一〇七
電話 函館 四九―一五二五

工事材料・電化製品

丸晃電気株式会社

函館市西桔梗町五八九―四九
電話 四九―一三三三

電気設備機器資材の総合卸商社

大興電機株式会社

本社 函館市西桔梗町五八九―一〇七
電話 代四九―六二二―一番
営業所 山越郡八雲町内浦町一〇七
電話 (〇三六) 三―三三六九番三菱電材特約店
あらゆる電設資材卸

隆東電機株式会社

函館市西桔梗町五八九―一〇八
電話 四九―一六二二六

電設資材・機電綜合卸

進和電機株式会社

040 函館市松川町三四―一三
電話 四二―一六二三一

明日をひらく電設資材の総合卸商社

株式会社 工ミヤ商会

函館営業所

函館市富岡町二丁目四一―一七
電話 四三―一三〇一―(代表)
本社 札幌・営業所 釧路、苫小牧電気工事材料
音響通信機器 総合商社

石垣電材株式会社

函館営業所

本社 060 札幌市中央区北六条西二丁目一番地
支店 063 苫小牧市新中野町一丁目三番二番
040 函館市中央島町六番一五号
函館営業所 (〇一三八) 五五―四二二番代